



「変革 2027」について私たちの考え

ジェイアール・イーストユニオン中央執行委員会見解

会社は昨年7月、中期経営ビジョン「変革 2027」を発表した。会社の発表した「変革 2027」では、首都圏の輸送を担い、東日本の路線網を維持してきた私たち鉄道会社を、海外進出を視野に入れた生活サービス事業へと変革するとしている。中でも主力である鉄道の重要性、安全性については『究極の安全』について追求するとした。

鉄道事業の「変革」では、いままで「お客さまを安全に目的地へお届けする」という責任を最重点項目としてきたが、これからは、その責任に加えて「輸送の質も追求していく」とも記している。輸送の質を高め、そこで得られた技術と経験を、お客さまの生活向上にも役立てる。そして、理想的な生活産業の在り方をめざすことが今回の中期経営ビジョンの根幹であると考えている。

さらに鉄道を起点としたビジネスから、ヒトを起点としたサービスに転換することも明確にした。

私たちジェイアール・イーストユニオンは会社が発表したこのグループ経営ビジョン「変革 2027」について自らから学び体現すべく挑戦していくことを中央執行委員会見解として明らかにする。

国鉄改革以降私たちは社員、労働組合の立場から「鉄道ルネッサンス」、「鉄道再生」の志のもと、鉄道、会社の信頼を取り戻すべく、熱意と信念をもって業務に精励すると共に再び不幸な歴史を繰り返さないとして過激派イデオロギーに偏重しない、企業内労働組合主義に徹し現実を直視した労働組合を創出すべく努力し続けてきた。この間の堅調な発展の大きな要因として私たちの会社をあたたく見守り続けてくださった地域、国民の皆さま、そして政府のご支援があったことを決して忘れてはならない。現在、私たちの会社は2019年3月期の会社予想では、売上高2兆9,940億円、営業利益4,820億円、経常利益4,400億円といわれる好業績がある。

しかし、私たち会社を取り巻く経営環境はさらなる人口減少や高齢化の進展。東京圏への人口集中。自動運転の実用化、技術革新やグローバル化等による産業構造の変化など急激に悪化する事も忘れてはならない。

こうした変化点、結節点にあって私たちは企業内労働組合として会社が打ち出した向こう10年の中期ビジョン「変革2027」について仲間と共に会社の目指す方向を、自ら学び、自ら具現化し、自らが創り上げる行動を具体的に展開する。この過程にあって私たちは労働組合として会社との間で協議し理解を深める運動を展開していく。

さらに、労働組合として、会社の方向が会社の主張する究極の安全であり、社業の健全な発展に寄与できるという前提である限りすべての仲間を代弁する公正、公平活動を実践していくことも明らかにする。もちろん民主的組織である以上、仲間への押し付け・強制については断固としてこれを許さないことは当然である。

私たちの望みは不変である。私たちの会社とJR各社の健全な発展。すべてのまじめに働く仲間の幸福にある。私たちの国の基幹産業であるJRが将来にわたって安全であり、ヒトを大切に豊で幸福を実感できるものに、企業経営の両輪ともいえる労使の相互信頼関係をしっかり構築する努力を今後とも継続していく。

私たちは民主的労働運動を志向する労働組合として自らを高め、自らを強化し、自ら行動する組織を仲間と共に創り上げていく。私たちは「前へ！」向かって力強く歩みを続ける事を明らかにする。

平成31年3月

ジェイアール・イーストユニオン中央執行委員会